

## 危機管理の感性

一人暮らしの老人宅に4人の屈強な強盗殺人者が押し入り、90才の女性を殴り殺した。結束テープで両手を縛られてハンマーを使ったのか素手で殴ったのか遺体は骨が見えるような悲惨な現状だったそうだ。犯行はアプリで仲間を募り一人暮らしの富裕なお年寄りを物色していた。さてみなさんの感性はどう感じただろうか。犯人には犯人の事情がありお気の毒だが一人暮らしならばセキュリティ会社と契約でもしておけばよかったの。とでも思うだろうか。怖かったろうに痛かったろうに。これが自分の母親ならば自分の子供が殺されたならばどう感じるだろうか。決して許さない、許されるはずもない。それがウクライナで起きており1年以上も続いている。

一人暮らしの老人宅に4人の子供も年寄りも身体が飛散し、押し潰され、焼け死んでいる。征服地では後頭部を撃ち抜かれ、犯され、掠奪される。狂人による一方的な圧倒的な暴力である。これを民間企業が商売として請け負っているという。狂気の国である。

■目の前にある最大の危機

さて、本誌でも何度か寄稿したが、根室から最短3・7キロしか離れていない北方四島にロシアの強力な基地があり、間違いないで日本をターゲットにした軍事作戦を用意している。すでに陸海空の数千人の軍隊が配備され威力演習を行なっている。いま北海道が世界でも一番の軍事的危機下にあるのである。首相と防衛大臣、北海道知事はこれをどう感じているのか。北海道新聞は岸田内閣の防衛政策について反撃能力を持てば相手もエスカレートするから反対するとの趣旨の論説を掲げた。これが地元紙の危機感か。

ウクライナのいつまでも終

わらない国民の命を奪う悲惨な泥沼はロシアのミサイルを撃ち落とせずミサイル基地に反撃できないことにある。

今の最新技術のミサイルはレーダーを掻い潜りホップアップして精密射撃する。撃ち落とせないのならばどうする。一撃はやむなく受けてもその瞬間に反撃して二発目からのミサイルを撃てなくさせるしかないではないか。そうしないと民間人も学校も病院も一方的に破壊され殺される。自衛隊基地は勿論、根室も釧路も帯広も札幌も千歳も苫小牧も泊も日本政府が北海道を割譲するまで爆撃は続くだろう。ウクライナのように3・7kmを渡り殺人者が自宅のドアを破って入ってきたらどうするのか。狂人独裁者が考

昨年世界中で大ヒットした映画「マーベリック」で数発のトマホークミサイルがテロ国家の航空基地を使用不可能にするシーンがあった。これで十分なのである。北方四島からミサイルが撃たれた瞬間にロシア基地を使用不可能にすればよいのである。核など持たなくてもよい。トマホーク1000発もあれば十分な抑止力である。撃つた瞬間に反撃されて自分たちも消滅するとわかっていたらボタンは押せない。南西諸島や台湾有事よりもいま北海道にこそ反撃能力が必要なのである。

平和呆けかコロナ呆けか、いま目の前にあるこれほどの事態に危機感を持ってないのなら政府も議員も行政もメディアも各々その役割を返上すべきである。



筆者紹介 株式会社あかりみらい代表取締役 越智文雄  
1980年北大法学部卒業。北海道電力、電気事業連合会、北海道洞爺湖サミット道民会議事務局次長などを歴任。電力業界で初代の危機管理担当室長の経験から自治体・企業へのアドバイザーとして活躍。環境・エネルギー問題の専門家。日本除菌連合会長、(一社)次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事、札幌なかかができる経済人ネットワーク主宰。